

「第3回和歌山市ワカモノ会議」

(令和8年8月23日開催)

実 施 報 告 書



主催 和歌山市教育委員会

第3回「和歌山市ワカモノ会議」開催要項

1 開催趣旨

和歌山市の未来を担う青年たちが、若者の視点をもとに学校・家庭・地域など社会全体で子供達を育てていくことの意義や可能性について話し合い、和歌山市の教育の発展に寄与することを目指す。

また、世代間・学校間を越えて、生徒や学生が交流することで、新しいつながりが生まれお互いを高め合える機会を創出する。

2 主 催

和歌山市教育委員会

3 応募資格

市内に在住する高校生・大学生及び市内の高校・大学に通学している方

4 参加者

- ・ 1 大学 4 名（和歌山大学）
- ・ 5 高校 10 名（星林高等学校・桐蔭高等学校・和歌山工業高等専門学校・和歌山信愛高等学校・近畿大学附属和歌山高等学校）

5 日程

開催日時 令和8年8月23日（日）13：00～16：00

開催場所 和歌山市役所 14階 大会議室

- 内 容
- ①自己紹介。
 - ②トークセッション。
 - ③司会と発表者を決定。
 - ④付箋を活用し、ブレインストーミングの手法を使って意見を出し合う。
 - ⑤出し合った意見についてKJ法により集約する。
 - ⑥意見をまとめ、各グループ全体発表（各グループ3分程度）。

6 討論テーマ

- A 日本の伝統や文化に関する教育の充実のためにはどうするとよい？
- ・高校生、大学生となって感じる日本の良さや歴史的価値のあること等
 - ・日本人のアイデンティティ、歴史的文化遺産、伝統芸能、食文化等
- B 中学生までの自分に教えた『本当に必要な学び』とは？
- ～教科以外で学びたかったこと～
- ・税・社会保険・金融・投資等、生きていくうえで必要な知識
 - ・IT教育・ITリテラシー・SNSを通じた友達関係の構築の仕方
- C 災害のとき、“助け合える地域”ってなんだろう？
- ・普段のつながり、孤独、世代交流、声をかけられる関係等
 - ・『非常時の備えは、日常から』そのためには

7 各グループの発表内容

①討論テーマ A班(3名)

学 校 名 桐蔭高等学校・和歌山信愛高等学校
近畿大学附属和歌山高等学校
(各1名)

内 容 日本の伝統や文化に関する教育の充実に向けて、メンバー各自が意見を出し合い、学校教育における各「教科」と関連付けて整理・分類した。特に「食(おにぎり、寿司、納豆、一汁三菜等)」に関する意見が多く挙げられ、家庭科の授業における調理実習等の実践的な学びの充実が有効であると考えた。さらに議論を深める中で、伝統や文化を学ぶ根底には「道徳(心)」の教育が最も重要であるとの認識に至った。この精神的な学びは個人ではなく他者との関わりの中で培われるものであり、日本人としての心を大切に育む教育を基盤とすることで、伝統や文化を主体的に尊重し、多角的に受け入れる姿勢が醸成されるとまとめた。



②討論テーマ B-1班(4名)

学 校 名 和歌山大学(2名)

星林高等学校・桐蔭高等学校(各1名)

内 容 現代社会を生き抜くために必要な学びについて、中学校生活における人間関係での課題や、近年の急速なデジタル化を踏まえて議論を深めた。人間関係においては、共同学習等で求められる協調性だけでなく、「自己を大切にしながら主体的に意見を発言する能力」の重要性が挙げられた。また、デジタル化への対応として、適切な SNS の利用方法や、それに伴う言語能力の向上が不可欠であると指摘した。これらを踏まえ、学校教育や教員に求める具体的な学びとして、多様な言語環境下での交流機会の創出、地域住民との関わりを深める体験活動、

自己表現(発信)の場の提供に加え、実践的な英語教育や、金銭感覚・投資に関する金融教育の導入を提示した。最終的に、中学生までの自身に向けて、現代社会における「人間関係の構築力」と「デジタル社会に対応する実務的な能力」の双方を学ぶことが極めて重要であるとまとめた。



③討論テーマ B-2班(3名)

学 校 名 和歌山大学

桐蔭高等学校・

近畿大学附属和歌山高等学校

(各1名)

内 容 現代社会を生き抜くために必要な学びについて、中学校生活における人間関係での課題や、近年の急速なデジタル化を踏まえて議論を深めた。人間関係においては、共同学習等で求められる協調性だけでなく、「自己を大切にしながら主体的に意見を発言する能力」の重要性が挙げられた。また、デジタル化への対応として、適切な SNS の利用方法や、それに伴う言語能力の向上が不可欠であると指摘した。これらを踏まえ、学校教育や教員に求める具体的な学びとして、多



様な言語環境下での交流機会の創出、地域住民との関わりを深める体験活動、自己表現(発信)の場の提供に加え、実践的な英語教育や、金銭感覚・投資に関する金融教育の導入を提示した。最終的に、中学生までの自身に向けて、現代社会における「人間関係の構築力」と「デジタル社会に対応する実務的な能力」の双方を学ぶことが極めて重要であるとまとめた。

③討論テーマ C 班(4名)

学 校 名 和歌山大学(1名)

星林高等学校(2名)・

和歌山工業高等専門学校(1名)

内 容 災害時において「助け合える地域」のあり方について、災害前(平時・事前対策)と災害後(避難・避難所生活)の局面に分けて多角的な視点から議論を行った。災害前の対策としては、近隣住民との日常的な関わりを深め、通信インフラ途絶時にも対面で確実な情報共有ができる体制を整える重要性を指摘した。また、安否確認を容易にする「黄色いハンカチ」の普及や、学校教育の中で AED やマンホールトイレの実践的な使用方法を学ぶ機会を設けることを提案した。災害後の避難時においては、観光客等にも

配慮した分かりやすい避難ルート標識の整備に加え、高齢者や歩行困難者といった避難困難者に対して若者が早期の避難呼びかけ(声かけ)を行うことの有効性を提示した。さらに、避難所生活では、県外からの避難者を含む多様な人々が自主的に助け合える環境づくりや、SOSを出しやすい雰囲気醸成が必要であるとした。特に、高齢者や妊婦など共通の課題を抱える人々が悩みを共有し合える専用のコミュニティを避難所内に設けることで、安心感の向上が図られると指摘した。これらを踏まえ、災害時における助け合いの根底には、平時からの多様な「つながり」の構築が極めて重要であるとまとめた。



8 教育長総評(要旨)

本日のワカモノ会議における皆さんの非常に高いコミュニケーション能力と、主体的に意見を交わし合う姿勢に深く感銘を受けました。異なるグループの進捗を互いに見学しに行くなど活発な交流が生まれており、わずかな時間で一つのチームとして見事にまとまっていました。

各グループの発表からは、それぞれが真摯に課題に向き合い、深く考え抜いた様子が伝わり、大変有意義な内容でありました。

Aグループ:伝統や文化について、これまでの学校教育における各教科での学びや経験を関連付け、最終的に「心(道徳)」をキーワードとして綺麗にまとめられていました。放課後に伝統文化を体験できるクラブ活動の創出など、若者ならではの具体的な着眼点も非常に印象的でした。

B-1グループ:デジタル化が急速に進展する現代社会においても、交流や地域とのつながりを通じた「人間関係の構築」が極めて重要であると、本質的な議論がなされていました。留学生との多文化交流も、非常に有意義な経験になったと感じます。

B-2グループ:昨年度の経験者を中心とした活発な議論が展開され、まとめ方も非常に洗練されていました。「自主性」こそが自らの手で豊かな人生を切り拓く基盤であるという指摘は、まさにその通りです。

Cグループ:災害前後に局面を分け、多様な立場の視点から「つながり」や「コミュニティ」の重要性を提示していました。防災における「自助・共助・公助」のうち、特に地域コミュニティにおける自助・共助の大切さを主体的に見出された点は、大変素晴らしいと感じました。



最後に、フランスの哲学者パスカルの「人間は考える葦である」という言葉を贈ります。現代は、AIに問いかえれば即座にそれらしい答えが得られる便利な時代です。しかし、だからこそ、皆さんが今日行ったように「あーでもない、こうでもない」と対話し、悩みながら一枚の模造紙に意見をまとめ、自分たち自身の結論を導き出すプロセスこそが、人間にしかできない本来の「考える」ことであり「学び」です。この経験をぜひ今後の糧にしてください。

また、本日各テーブルに入ってくれた中学校の先生方にとっても、皆さんの考える姿は今後の指導の大きな参考となりました。教育委員会として、いただいた貴重な意見を今後の教育行政に活かしてまいります。ぜひ次回、第4回会議へも多くの皆さんが参加してくださることを期待しています。

9 閉会あいさつ(和歌山市教育委員会 教育局長:要旨)

まず、参加者の皆さんに、異なる学校や世代のメンバーと交流する本日のプログラムを楽しんでいただけたことを大変嬉しく思います。第3回を迎えたこの「ワカモノ会議」は、学校や世代を越えた対話を通じて、皆さんの視野や考え方の幅をさらに広げていただくことを大きな目的として開催しています。



本日発表された各グループの素晴らしい提言はもちろんのこと、その取りまとめのプロセスにおいて皆さんから出された多様な意見は、私たち教育委員会や、各グループを担当した指導主事にとっても大変有意義であり、深く学ぶ機会となりました。このような若者の声を聴く取り組みは、国が示す「こども白書」等において、子どもや若者に関する施策に当事者自身の意見を反映させていくという趣旨に基づき、本市でも実施しているものです。

教育委員会としては、今後もこうした主体的な意見交換の場を継続してまいりたいと考えております。ぜひ今回の経験をご友人にも共有していただき、次回以降もさらに多くの若者の意見を聞かせていただけることを期待しています。本日は誠にありがとうございました。

10 参加者の感想

- ・他校の人や大学生とじっくり話す機会はなかなかないので、すごく新鮮で楽しかったです。
- ・自分が話したことに対して、みんなが「それ良いね!」と共感してくれたり、さらに意見を広げてくれたりしたのが本当に嬉しかったです。
- ・普段の生活ではあまり深く考えないようなテーマについて、みんなと時間をかけてじっくり考えられたことが、とても良い刺激になりました。
- ・違う学校の友達や大学生の先輩と話すことで、自分一人では絶対に思いつかないようなアイデアや新しい見方にたくさん出会えました。
- ・学校の授業とは違って、事前の準備なしにその場で話し合っ人前で発表するという体験ができたのは、すごく良い経験になりました。
- ・初対面の人たちと意見を出し合い、それを短い時間で一つの形にまとめて発表することの難しさと、やり遂げた達成感の両方を味わえました。
- ・高校生のみんなが今どんな学校生活を送り、どんなことを考えているのかを直接知ることができて、おもしろかったし刺激になりました(大学生)。
- ・留学生の方も交えて意見交換ができたことで、文化の違いや多様な価値観に触れることができ、とても学びの多い貴重な時間になりました。
- ・年齢や学校の枠を越えて、教育委員会の先生方ともフラットに関わり合いながら意見を言えたのが良かったです。
- ・広いテーマから最終的な結論を一つに絞り込んでいくのは難しかったけれど、一つの問題についてトコトン深く考える力がついたと感じています。
- ・将来、教師を目指しているのので、今の高校生が教育について自ら真剣に考えている姿に感動しましたし、これからの教育実習にも活かしていきたいです(大学生)。

- ・各テーブルに指導主事の先生が入ってサポートしてくれたおかげで、緊張がほぐれて話し合いがスムーズに深まりました。
- ・自分の意見を分かりやすく人に伝える力だけでなく、他の人の意見をしっかりと「聞く」ことの大切さを改めて学ぶことができました。
- ・最初はすごく緊張したけれど、参加して本当に良かったです。今年もすごく有意義な経験になったので、ぜひまた来年も参加したいです！

ワカモノ会議全体の満足度

項目	満足	やや満足	どちらとも言えない	やや不満	不満
人数 (人)	14	0	0	0	0

ワカモノ会議の内容は今後役に立ちそうか

項目	そう思う	やや そう思う	どちらとも言えない	あまり そう思わない	そう思わない
人数 (人)	14	0	0	0	0

令和8年8月

和歌山市教育委員会 青少年課 作成